

付

特許・実用新案登録一覧

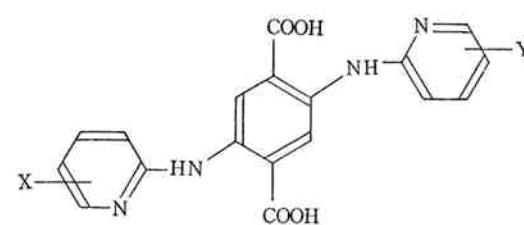
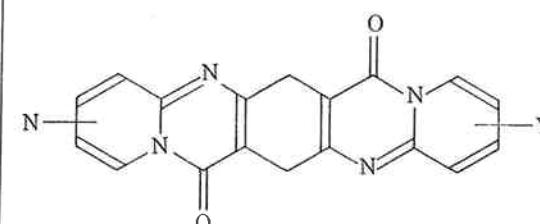
—昭和57年度—

<日本特許> 73件

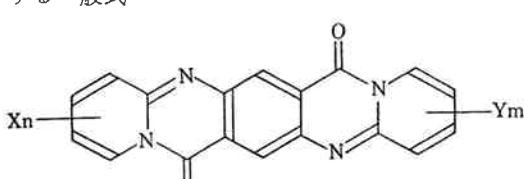
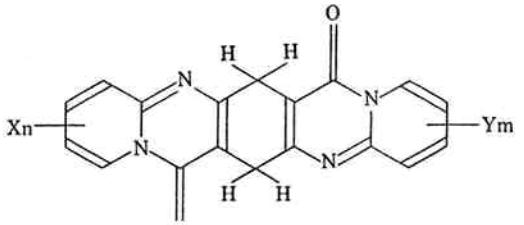
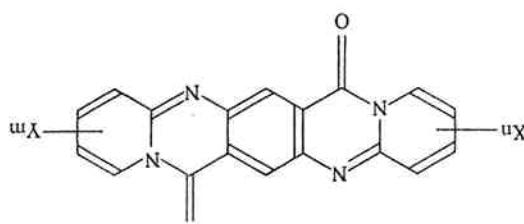
Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
1	48-52474 (48. 5.14)	56-22356 (56. 5.25)	1079739 (57. 1.25)	静電塗装用塩化ビニル系粉体塗料組成物 (大橋 孝一, 高橋 勇治, 鈴木 孝)	(1) 塩化ビニル単量体と、その重合速度より早い共重合速度を有し、かつ单重合体の二次転移点が塩化ビニル単量体のそれより低い少くとも一種の塩化ビニル単量体と共に重合し得る単量体とを水性媒体中で界面活性剤および顔料ならびに必要に応じて劣化防止剤の存在下、循環回数が5~30/分の搅拌のもとで前記単量体が乳化共重合させることを特徴とする直径が30~250ミクロン、体積固有電気抵抗 $10^9\sim10^{18}\Omega\text{cm}$ 、嵩比重0.3以上の実質的に球形の粒子となる静電塗装用粉体塗料組成物。 (2) 塩化ビニル単量体と、その重合速度より共重合速度を有し、かつ单重合体の二次転移点が塩化ビニル単量体のそれより低い少くとも一種の単量体とを水性媒体中で界面活性剤、顔料および流動性向上剤の存在下、循環回数が5~30/分の搅拌のもとで前記単量体を乳化共重合させ、重合終了後この系に熱分解防止剤を加えたのち重合体を水性媒体から分離取得することを特徴とする直径約30~250ミクロン、体積固有電気抵抗 $10^9\sim10^{18}\Omega\text{cm}$ 、嵩比重0.3以上の実質的に球形の粒子となることを特徴とする静電塗装用粉体塗料組成物。
2	51-11326 (51. 2. 6)	56-24578 (56. 6. 6)	1079820 (57. 1.25)	触媒の回収方法 (大塩 通昭, 松原 健一, 提 幸弘, 菊地 光雄)	(1) 銅化合物を触媒としてジクロルベンゼンとアンモニアを反応させてフェニレンジアミンを生成させた反応生成液から、銅触媒成分を回収するに当り、反応生成液にアルカリを添加してpHを11から13として銅触媒成分を析出させ、析出した銅触媒成分を含む反応生成液を水との共沸蒸留に付したのち、蒸留残液より銅触媒成分を分離回収することを特徴とする触媒の回収方法。 (2) 銅化合物を触媒としてジクロルベンゼンとアンモニアを反応させてフェニレンジアミンを生成させた反応生成液から、銅触媒成分を回収するに当り、反応生成液にアルカリを添加してpHを11から13として銅触媒成分を析出させ、析出した銅触媒成分を含む反応生成液を水との共沸蒸留に付した後又は付さないで、水と部分的に混和する有機溶剤と接触させ、銅触媒成分を有機溶剤相とともに大部分

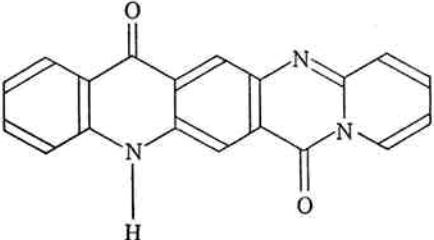
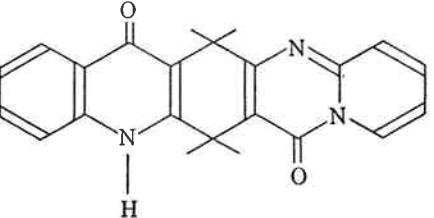
Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					の水相と分離し、更にこれを有機溶剤相から分離回収することを特徴とする触媒の回収方法。
3	51-115413 56-21001 1079837 (51. 9.28) (56. 5.16) (57. 1.25) (五十嵐辰夫)	飼料用防黴剤組成物			(1) 有効成分として、プロピオン酸及び/又はその塩と、プロピオン酸残基に対して約0.3乃至約20重量パーセントのヘキサメチレンテトラミンを含む飼料用防黴剤組成物。 (2) 飼料に、その100重量部当りプロピオン酸残基として約0.05乃至約5重量部のプロピオン酸及び/又はその塩と、同じく100重量部当たり約0.001乃至約0.5重量部のヘキサメチレンテトラミンを添加することを特徴とする飼料に黴類等の有害生物が増殖することを防止する方法。
4	48-45701 56-26946 1082612 (48. 4.24) (56. 6.22) (57. 1.29) (松田竹三郎, 小山 明夫, 小柴 淳治)	乾電池			フマール酸またはテレフタール酸を陽極合剤中に含有させたことを特徴とするマンガン乾電池。
5	53-42154 56-25451 1082685 (53. 4.12) (56. 6.12) (57. 1.29) (大野省太郎, 小山 憲治, 福田 三寿, 清水 明彦)	多孔質板表面に強固に結合した高分子薄膜を形成せしめる方法			多孔質板に水、エチレングリコール、グリセリンあるいは、これらの混合物を含浸させて、その表面に高分子溶液を塗布、乾燥して該多孔質板表面に高分子薄膜を形成せしめるにあたり、該多孔質板の両面に圧力差を与えたまま高圧側に高分子溶液を塗布し蒸発させることを特徴とする多孔質板表面に強固に結合した高分子薄膜を形成せしめる方法。
6	51-42412 56-26613 1084175 (51. 4.16) (56. 6.19) (57. 2.25) (有家 潤二, 滝谷 賢, 御手洗計治, 山本 和明)	連鎖状炭酸カルシウムの製造方法			水酸化カルシウムの水性懸濁液を二酸化炭素により炭酸化して連鎖状炭酸カルシウムを製造するに際して、0~30°Cでキレート剤の存在下で炭酸化する第一次炭酸化工程と該一次炭酸化工程終了後の懸濁液に水溶性金属塩あるいはアルカリ金属の硫酸塩またはリン酸塩類の存在下で炭酸化する第二次炭酸化工程からなることを特徴とする連鎖状炭酸カルシウムの製造方法。
7	52-89725 56-28485 1084202 (52. 7.28) (56. 7. 2) (57. 2.25) (岡田 宏亮, 園田 武文, 後藤 鉄之)	灌水パイプおよびその製造方法			(1) 同種又は異種の熱可塑性樹脂から少くともなる積層フィルムの積層面の長手中央が剥離して形成する導管部と、この導管部の両手側面にひれ状に突き出た積層接合部よりなり、この接合部に、離間間隔で存在するより糸、引うそろえ糸、異形断面糸、あるいはエンボスストリップと基材との間で形成している細隙からなる小口径散水流路を有することを特徴とする灌水パイプ。 (2) 長手方向に平行な多数の縞状帶模様の剥離性皮膜を、フィルムの表面に設けた熱可塑性樹脂の広巾、長尺フィルムを基材とし、この基材に、基材との間に細隙を形成することができるより糸、引きそろえ糸、異形断面糸、あるいはエンボスストリップを、縞状帶模様と交叉する方向に離間間隔で挿入しながら熱可塑性樹脂フィルムをラミネートした後、隣り合う帶模様の間を長手方向にスリットすることを特徴とする灌水パイプの製造方法。

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
8	53-103869 (53. 8.28) (毛利 隆, 横山 一男, 三浦 正道)	56-26720 (56. 6.20)	1084217 (57. 2.25)	クロム, ニッケルを含め合金メッキ液	(1) 1) 3価クロム, 2)ニッケル, 3)アミノ酸, カルボン酸, オキシカルボン酸又はこれらの酸の塩からなる群から選ばれた少なくとも1種, 4)アルミニウム塩, 5)アンモニウムイオンを含むクロム, ニッケルを含め合金メッキ液。 (2) 1) 3価クロム, 2)ニッケルならびにクロム, ニッケルと共に析可能な金属, 3)アミノ酸, カルボン酸, オキシカルボン酸又はこれらの酸の塩からなる群から選ばれた少なくとも1種, 4)アルミニウム塩, 5)アンモニウムイオンを含むクロム, ニッケルを含め合金メッキ液。
9	51-41201 (51. 4.14) (宮之原 煉, 宮崎 弘, 河本 秀雄)	56-31160 (56. 7.20)	1086523 (57. 2.26)	生物系汚泥の改質法	生物系汚泥に軽焼マグネシアを添加することを特徴とする生物系汚泥の改質法。
10	52-32280 (52. 3.25) (竹本 久雄, 弘中美佐子, 麻生 順子, 五十嵐辰夫)	56-32912 (56. 7.30)	1089277 (57. 3.23)	微生物菌体の製造法	メタノールを主たる炭素源とした培地にショードモナス・ビスコゲナに属するメタノール資化性細菌を培養し, 該培養液から細菌菌体を分離することを特徴とする微生物菌体の製造法。
11	52-94928 (52. 8.10) (竹本 久雄, 五十嵐辰夫)	56-33072 (56. 7.31)	1089280 (57. 3.23)	微生物菌体の製造法	水溶性炭素源として低級アルコール, 低級脂肪酸又は糖を含む培地にショードモナス・ベラに属する細菌を培養し, 培養液から菌体を分離採取することを特徴とする微生物菌体の製造法。
12	52-119087 (52.10. 5) (竹本 久雄, 五十嵐辰夫)	56-33073 (56. 7.31)	1089283 (57. 3.23)	微生物菌体の製造方法	主炭素源としてメタノールを含め培地にショードモナス・フラボメタノロフィラに属する細菌を培養し, 培養液から菌体を分離採取することを特徴とする微生物菌体の製造方法。
13	50-105784 (50. 9. 1) (植村 勝, 黒木 斎, 越田 展弘, 小坂勇次郎)	56-35797 (56. 8.19)	1091315 (57. 3.31)	被覆金属管	(1) 金属管の表面に, 酢酸ビニル含量が15~40重量%でメルトイインデックスが10~1,000g/10分のエチレン-酢酸ビニル共重合体またはエチレンエチルアクリレートを5~50重量部と低分子量プロピレン-エチレン共重合体の酸化物または低分子量ポリプロピレンの酸化物2~30重量部とスチレン-ブタジエン共重合体, ポリイソプレン, プチルゴム, クロルスホン化ポリエチレン, ポリイソブチレンより選ばれた少くとも1種とを5~35重量部と粘着化樹脂を5~50重量部と無定形ポリプロピレン10~80重量部とを配合してなる組成物を熱溶融被覆金属管。 (2) 特許請求の範囲第1項の被覆金属管の表面にポリエチレン, ポリプロピレン等の熱可塑性樹脂を外層として被覆した被覆金層管。
14	50-105786 (50. 9. 1) (植村 勝, 黒木 斎, 越田 展弘, 小坂勇次郎)	56-35798 (56. 8.19)	1091316 (57. 3.31)	被覆金属管	(1) 地下埋設用の金層管の表面に, 酢酸ビニル含量が15~40重量部でメルトイインデックスが10~1,000g/10分のエチレン-酢酸ビニル共重合体とメルトイインデックス1.5~20g/10mmのエチレンエチルアクリレート樹脂の少くとも1種とを5~30重量部と低分子量プロピレン-エチレン共重合体の酸化物または

N	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					低分子量ポリプロピレンの酸化物2~30重量部とポリイソブレン、ブチルゴム、ポリイソブチレン、クロルスルホン化ポリエチレンを5~30重量部と粘着化樹脂を5~50重量部とアスファルト10~80重量部とを配合してなる組成物を熱溶融被覆したことを特徴とする被覆金属管。 (2) 特許請求の範囲第1項の被覆金属管の表面にポリエチレン、ポリプロピレン等の熱可塑性樹脂を外層として被覆した被覆金属管。
15	48-113806 (48.10.12) (川上 登、後藤 武司、 加藤 明美)	56-36206 (56. 8. 22)	1091874 (57. 4. 16)	ニッケルーコバルト系合金スクラップの塩素化法	ニッケルまたはコバルトの一種以上を含有する合金、スクラップまたは鉱石からの半製品を溶解し得られた溶融物中に酸素または酸素含有ガスを通じて前記合金、スクラップまたは鉱石からの半製品に含有されているケイ素、アルミニウム、炭素、チタンなどを酸化物とし、同伴した泥、砂、油などとともに除去し、ついで溶融物を水砕し得られた合金粒または粉末を水性媒体に浸漬したのち、これに塩素を通すことを特徴とする前記ニッケルーコバルト系合金スクラップの塩素化法。
16	47-50374 (47. 5. 23) (大槻 進、宮之原 熟、 水井 規雅)	54-38597 (54. 11. 21)	1093064 (57. 4. 16)	重金属捕捉材料	活性炭に硫酸バリウム、硫化鉄、硫化亜鉛、硫化マンガンおよび分子中に式 $\begin{array}{c} S \\ \\ N-C-S-X \end{array}$ (式中、Xは環を構成しないS、C、Nまたは金属原子を示し、…は単結合または二重結合を示す。)で表わされる原子団をもつ化合物の群より選ばれた少なくとも1種の化合物を担持させた水溶液中の重金属捕捉材料。
17	52-25681 (52. 3. 9)	56-38149 (56. 9. 4)	1093140 (57. 4. 16)	テレフタル酸誘導体及びその製造法	(1) 一般式  (式中X及びYは水素又は炭素数1乃至3のアルキル基である)で表わされるテレフタル酸誘導体。 (2) 一般式  (式中X及びYは水素又は炭素数乃至3のアル

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					<p>キル基である)で表わされる6・7・14・15-テトラヒドロピリド[2・1-b]ピリド[1'・2':1・2]ピリミド[4・5-g]キナゾリン-7・15-ジオン類を液状媒体中アルカリ性で酸化開環させることを特徴とする一般式</p> <p>(式中X及びYは前記と同じ意味である)で表わされる2・5-ビス(2-ピリジルアミノ)テレフタル酸類の製造法。</p>
18	48-36234 (48. 3.31)	56-32038 (56. 7.24)	1095034 (57. 4.27)	懸濁液の処理方法 (大槻 進, 有家 潤二, 坊上 成信)	<p>(1) 含水アルミナ質のケイ酸塩を主成分とする粘土に対し、そのケイ素以外の金属酸化物当たり0.6~1化学当量の鉛酸を加え処理して得られる生成物を凝固剤として使用することを特徴とする懸濁液の処理方法。</p> <p>(2) 含水アルミナ質のケイ酸塩を主成分とする粘土に対し、そのケイ素以外の金属酸化物当たり0.6~1化学当量の鉛酸を加え処理して得られる生成物を凝固剤とし、これに水溶性有機高分子量重合体を凝集剤として併用することを特徴とする懸濁液の処理方法。</p>
19	51-150746 (51.12.17)	56-40145 (56. 9.18)	1095058 (57. 4.27)	芳香族ジアミンの製造法 (大塩 通昭, 提 幸弘, 菊地 光雄)	芳香族ジハライドとアンモニアとを芳香族ジハライドに対して少なくとも2モル倍量の水の存在下、銅化合物を触媒として、液相で反応させて芳香族ジアミンを製造するに当り、反応温度条件及び反応圧力条件下における反応開始時の水相でのアンモニア濃度を40乃至70重量%とすることを特徴とする芳香族ジアミンの製造方法。
20	51-17887 (51. 2.23)	56-42322 (56. 10. 3)	1097376 (57. 5.14)	無機凝集剤の製造方法 (宮之原 熨, 宮崎 弘, 河村 秀雄)	硫酸アルミニウムと塩化アルミニウムの混合水溶液に炭酸カルシウムを硫酸イオンと等モル添加、反応させて得られた塩基性塩化アルミニウム水溶液に60°C以下でアルカリ剤を添加することにより塩基度65~70を付与したことを特徴とする塩基性塩化アルミニウム凝集剤の製造方法。
	51-27718 (51. 3.16)	56-41663 (56. 9.29)	1097379 (57. 5.14)	キナゾロン誘導体の製造法 (横山 泰一, 岩本 英次)	<p>(1) 一般式</p> <p>(式中X及びYは炭素数1~3のアルキル基,</p>

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					<p>炭素数1～3のアルコキシ基又はハロゲンであり, n及びmは0, 1又は2である)で表わされる6・14-ジヒドロピリド[2・1-b]ピリド[1'・2':1・2]ピリミド[4・5-g]キナゾリン-7・15-ジオン類を液体媒体中酸性条件下においてキノン類を酸化剤として酸化することを特徴とする一般式</p>  <p>(式中 X, Y, n 及び m は上記と同じである)で表わされるピリド[2・1-b]ピリド[1'・2':1・2]ピリミド[4・5-g]キナゾリン-7・15-ジオン類の製造法。</p> <p>(2) 一般式</p>  <p>(式中X及びYは炭素数1～3のアルキル基, 炭素数1～3のアルコキシ基又はハロゲンであり, n及びmは0, 1又は2である)で表わされる6・14-ジヒドロピリド[2・1-b]ピリド[1'・2':1・2]ピリミド[4・5-g]キナゾリン-7・15-ジオン類を濃硫酸中でキノン類を酸化剤として酸化し, 得られた反応液を必要に応じて沪過した後氷水中に注加し, 析出した結晶を含む分散液を中和し, これより微結晶固型分を採取することを特徴とする一般式</p>  <p>(式中 X, Y, n 及び m は上記と同じである)で表わされるピリド[2・1-b]ピリド[1'・2':1・2]ピリミド[4・5-g]キナゾリン-7・15-ジオン類の製造法。</p>
21					

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
22	53-73703 (53. 6.20)	56-43259 (56. 10.12)	1097425 (57. 5.14)	5-H-ピリド [1'·2':1·2] ピリミド [4·5-b] アクリジン-7·15-ジオノン及びその製造法	(1) 式  で表わされる 5H-ピリド [1'·2':1·2] ピリミド [4·5-b] アクリジン-7·15-ジオノン。 (2) 式  で表わされる 6·14-ジヒドロ-5H-ピリド [1'·2':1·2] ピリミド [4·5-b] アクリジン-7·15-ジオノンを脱水素することを特徴とする 5H-ピリド [1'·2':1·2] ピリミド [4·5-b] アクリジン-7·15-ジオノンの製造法。
23	53-26015 (53. 3. 9)	56-2112 (56. 1. 17)	1098249 (57. 5. 27)	押出コーティング可能な熱活性型接着剤組成物 (新原 英雄, 小玉 良明, 藤木 時男)	酢酸ビニル含量 5重量%から 30重量% のエチレン-酢酸ビニル共重合樹脂 75重量%から 97重量% ならびに環球法軟化点 60°C から 130°C の脂環族炭化水素樹脂および/または脂肪族系炭化水素樹脂 3重量%から 25重量% の混合組成物 100重量部に対し, よう素価が 65以上の脂肪酸アミド 10重量%から 90重量% 及びよう素価が 3以下の脂肪酸アミド 10重量%から 90重量% の混合物を 0.03重量部から 3重量部を配合してなる組成物で, さらに, そのメルト・インデックスが 2 g/10分から 55 g/10分であることを特徴とする高速押出コーティング加工が可能な熱活性型接着剤組成物。
24	52-88863 (52. 7. 26)	56-45488 (56. 10. 27)	1099660 (57. 6. 18)	塩化ビニル及び/又は塩化ビニル系单量体の気相重合方法 (永野 峰雄, 粟沢 茂, 丹羽 竜彦)	セルローズ誘導体の存在下で塊状重合を行ない得られた塩化ビニル及び/又は塩化ビニル系重合体を種重合体として用い, 重合圧力を用いる单量体の重合温度における飽和蒸気圧より小として重合することを特徴とする塩化ビニル及び/又は塩化ビニル系单量体の気相重合方法。
25	53-43281 (53. 4. 14)	56-45512 (56. 10. 27)	1099668 (57. 6. 18)	キナクリドン顔料の製造方法 (横山 泰一, 岩本 英次)	6·13-ジヒドロキナクリドンをジメチルスルホキシド中で水, アルカリ, および酸化剤の存在下に加熱して酸化し, キナクリドン溶液としたのち極性溶剤又は酸で希釈して微細化することを特徴とするキナクリドン顔料の製造方法。
26	52-103141 (52. 8. 30)	56-45854 (56. 10. 29)	1101352 (57. 6. 25)	二ケイ化クロムの製造法 (森 忠芸, 川上 登)	還元剤とクロムのハロゲン化物およびケイ素とを不活性雰囲気中で加熱することを特徴とする二ケイ化クロムの製造法。

No	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨										
27	53-49968 (53. 4. 28) (田村 幾夫, 月館 隆明, 有家 潤二)	56-45513 (56. 10. 27)	1101356 (57. 6. 25)	ウルトラマリン顔料の 製造方法	<p>(1) A型ゼオライト, X型ゼオライトおよびY型ゼオライトなる群から選ばれた少なくとも1種のゼオライトと、 一般式： A_2Sx (式中Aはアルカリ金属元素, xは1~5の範囲の数を示す) で示されるアルカリ金属硫化物又は還元性物質の存在下若しくは不存在下にアルカリ金属源およびイオウの混合物とを非酸化性雰囲気で加熱してウルトラマリングリーンを得ることを特徴とするウルトラマリン顔料の製造方法。</p> <p>(2) A型ゼオライト, X型ゼオライトおよびY型ゼオライトなる群から選ばれた少なくとも1種のゼオライトと 一般式： A_2Sx (式中Aはアルカリ金属元素, xは1~5の範囲の数を示す) で示されるアルカリ金属硫化物又は還元性物質の存在下又は不存在下にアルカリ金属源およびイオウの混合物とを非酸化性雰囲気で加熱しウルトラマリングリーンを得、次いで該ウルトラマリングリーンを酸化性雰囲気で加熱してウルトラマリンブルーを得ることを特徴とするウルトラマリン顔料の製造方法。</p>										
28	52-77731 (52. 7. 1) (三宅 寛, 本田 昭, 田中 義雄, 水野 一男)	56-39372 (56. 9. 12)	1102484 (57. 6. 25)	高純度金属クロムの製 造法	酸化クロムを1,100~1,400°C, 0.5~20トールで炭素還元し、その際3時間から12時間の還元反応時間内で前記時間を調節することによって酸素0.1~2%, 炭素0.1%以下の一次還元生成物とし、次いで該生成物を水素雰囲気中, 1,300~1,600°Cで16~26時間更に還元することを特徴とする高純度金属クロムの製造法。										
29	53-144054 (53. 11. 24) (田村 幾夫, 杉山 則正, 月館 隆明, 有家 潤二)	56-47221 (56. 11. 9)	1102497 (57. 6. 25)	顔料用組成物及びその 製造法	<p>(1) 化学組成が</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr><td>M_2O</td><td>10~30重量%</td></tr> <tr><td>(M_2はアルカリ金属2原子又はアルカリ土類金属1原子を表わす)</td><td></td></tr> <tr><td>Al_2O_3</td><td>20~40重量%</td></tr> <tr><td>SiO_2</td><td>25~45重量%</td></tr> <tr><td>S</td><td>5~25重量%</td></tr> </table> <p>の範囲内にあり、結晶系が立方晶系で、その格子定数が約123Åであり、面間隔7.14Å, 4.11Å, 3.72Å, 3.30Å及び3.00Åに相当する5本の強い線、面間隔12.40Å, 8.75Å及び4.36Åに相当する3本の中程度の強さの線並びに面間隔5.52Å及び5.05Åに相当する2本の弱い線を示すX線回析图形をもって特色づけられ、かつ黄色乃至緑色を有する顔料組成物。</p> <p>(2) 一般式</p> $M_2O \cdot Al_2O_3 \cdot 2SiO_2 \cdot 4.5H_2O$ <p>(式中 M_2はアルカリ金属2原子又はアルカリ土類金属1原子を表わす。)</p>	M_2O	10~30重量%	(M_2 はアルカリ金属2原子又はアルカリ土類金属1原子を表わす)		Al_2O_3	20~40重量%	SiO_2	25~45重量%	S	5~25重量%
M_2O	10~30重量%														
(M_2 はアルカリ金属2原子又はアルカリ土類金属1原子を表わす)															
Al_2O_3	20~40重量%														
SiO_2	25~45重量%														
S	5~25重量%														

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨																				
					<p>で示される結晶性のA型ゼオライトと、一般式 A_2Sx (式中Aはアルカリ金属、xは1より大きい数を表わす。)</p> <p>で示されるアルカリ金属硫化物とを、非酸化性雰囲気下 300~600°C で加熱し、化学組成が</p> <table> <tr><td>M_2O</td><td>10~30重量%</td></tr> <tr><td>(M_2 は前記と同じ)</td><td></td></tr> <tr><td>Al_2O_3</td><td>20~40重量%</td></tr> <tr><td>SiO_2</td><td>25~45重量%</td></tr> <tr><td>S</td><td>5~25重量%</td></tr> </table> <p>の範囲内にあり、結晶系が立方晶系で、その格子定数が約12.3Åであり、面間隔7.14Å, 4.11Å, 3.72Å, 3.30Å及び3.00Åに相当する5本の強い線、面間隔12.40Å, 8.75Å及び4.36Åに相当する3本の中程度の強さの線並びに面間隔5.52Å及び5.05Åに相当する2本の弱い線を示すX線回折图形をもって特色づけられ、かつ黄色乃至緑色を有する組成を得ることを特徴とする顔料用組成物の製造法。</p>	M_2O	10~30重量%	(M_2 は前記と同じ)		Al_2O_3	20~40重量%	SiO_2	25~45重量%	S	5~25重量%										
M_2O	10~30重量%																								
(M_2 は前記と同じ)																									
Al_2O_3	20~40重量%																								
SiO_2	25~45重量%																								
S	5~25重量%																								
30	53-145361 56-47222 1102498 (53.11.27) (56.11.9) (57. 6.25) (田村 幾夫, 杉山 則正, 月館 隆明, 有家 潤二)	青色無機顔料及びその 製造法			<p>(1) 化学組成が</p> <table> <tr><td>M_2O</td><td>10~30重量%</td></tr> <tr><td>(M_2 はアルカリ金属2原子又はアルカリ土類金属1原子を表わす。)</td><td></td></tr> <tr><td>Al_2O_3</td><td>20~40重量%</td></tr> <tr><td>SiO_2</td><td>25~45重量%</td></tr> <tr><td>S</td><td>5~30重量%</td></tr> </table> <p>の範囲内にあり、結晶系が立方晶系で、格子定数が12.3Åであり、面間隔7.14Å, 4.11Å, 3.72Å, 3.30Å及び3.00Åに相当する5本の強い線、面間隔4.36Å及び3.42Åに相当する2本の中程度の強さの線並びに面間隔5.05Åに相当する1本の弱い線を示すX線回折图形をもって特徴づけられる青色無機顔料。</p> <p>(2) 一般式</p> $M_2O \cdot Al_2O_3 \cdot 2SiO_2 \cdot 4.5H_2O$ <p>(式中 M_2 はアルカリ金属2原子又はアルカリ土類金属1原子を表わす。)</p> <p>で示される結晶性A型ゼオライトと、一般式 A_2Sx (式中Aはアルカリ金属、xは1より大きい数を表わす。)</p> <p>で示されるアルカリ金属硫化物とを非酸化性雰囲気下 300~600°C で加熱し、次いで得られた生成物を酸化性雰囲気下 300~600°C で加熱し、化学組成が</p> <table> <tr><td>M_2O</td><td>10~30重量%</td></tr> <tr><td>(M_2 はアルカリ金属2原子又はアルカリ土類金属1原子を表わす。)</td><td></td></tr> <tr><td>Al_2O_3</td><td>20~40重量%</td></tr> <tr><td>SiO_2</td><td>25~45重量%</td></tr> <tr><td>S</td><td>5~30重量%</td></tr> </table>	M_2O	10~30重量%	(M_2 はアルカリ金属2原子又はアルカリ土類金属1原子を表わす。)		Al_2O_3	20~40重量%	SiO_2	25~45重量%	S	5~30重量%	M_2O	10~30重量%	(M_2 はアルカリ金属2原子又はアルカリ土類金属1原子を表わす。)		Al_2O_3	20~40重量%	SiO_2	25~45重量%	S	5~30重量%
M_2O	10~30重量%																								
(M_2 はアルカリ金属2原子又はアルカリ土類金属1原子を表わす。)																									
Al_2O_3	20~40重量%																								
SiO_2	25~45重量%																								
S	5~30重量%																								
M_2O	10~30重量%																								
(M_2 はアルカリ金属2原子又はアルカリ土類金属1原子を表わす。)																									
Al_2O_3	20~40重量%																								
SiO_2	25~45重量%																								
S	5~30重量%																								

No	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					の範囲内にあり、結晶系が立方晶系で、格子定数が12.3Åであり、面間隔7.14Å, 4.11Å, 3.72Å, 3.30Å及び3.00Åに相当する5本の強い線、面間隔4.36Å及び3.42Åに相当する2本の中程度の強さの線並びに面間隔5.05Åに相当する1本の弱い線を示すX線回折图形をもって特色づけられる青色粉末を得ることを特徴とする青色無機顔料の製造法。
31	53-154213 56-47220 (53.12.15) (56.11.9) (57. 6.25) (藤井 修, 高野 操, 魚谷 武, 岩本 英次)	56-47220 (56.11.9)	1102500 (57. 6.25)	イソインドリノン系顔料の精製法	粗製イソインドリノス系顔料を芳香族炭化水素溶剤に分散し、これにアルカリ金属又はアルカリ土類金属のアルコラート又は水酸化物とアルコール及び/又は水とを添加し、該顔料のアルカリ塩を形成し、次いでこれを分離し、得られた該顔料のアルカリ塩を再び芳香族炭化水素溶剤に分散し、酸を用いて加水分解することを特徴とするイソインドリノン系顔料の精製法。
32	49-60310 56-52103 (49. 5.30) (56.12.10) (57. 6.25) (川上 登, 加藤 徹, 伊藤富士隆, 天満 覚)	56-52103 (56.12.10)	1104992 (57. 6.25)	金属クロムの製造法	クロム含有鉱石を炭素質還元材の存在下電気炉で還元して得られる高炭素フェロクロムを塩酸で溶解し、溶解残渣を除去した溶解液中に含まれる鉄イオンを酸化して三価の鉄イオンとし、ついで抽出剤で前記溶解液中の鉄分を抽出除去し、更に必要に応じて抽出剤で溶解液中の不純物を抽出除去し、クロム分を含む残液のクロム濃度を調節し、この残液を電解液として電解して金属クロムを得ることを特徴とする金属クロムの製造法。
33	54-67511 56-51234 (54. 6. 1) (56.12. 3) (57. 7.30) (斎藤 光高)	56-51234 (56.12. 3)	1107360 (57. 7.30)	グリコール類の製造方法	ホルムアルデヒドからグルコール類を電解により製造する方法において、炭素系電極を陰極に用い、アルカリ溶液中でホルムアルデヒドを電解することを特徴とするグリコール類の製造方法。
34	48-92101 56-52885 (48. 8.18) (56.12.15) (57. 8.13) (ピーター・ジョン・ニコラ ス・プラウン) (B.P.より譲受)	56-52885 (56.12.15)	1108369 (57. 8.13)	1,2,3,4-テトラクロロブタンのdl体及びmeso体間の異性化反応において、触媒として塩化アルミニウムの存在下でおこなうことを特徴とするテトラクロロブタンの異性化方法。	
35	53-89417 57-1239 (53. 7.24) (57. 1. 9) (57. 8.13) (新堀 圭介, 杉本 保幸, 安藤 時也, 酒井 重男) (オルガノ(株)と共願)	57-1239 (57. 1. 9)	1108434 (57. 8.13)	ビートジュースの精製方法	ビートジュース精製方法において、アルミニウムおよび鉄の中から選ばれた少なくとも一種の金属成分を含む金属成分と、カルシウムおよびマグネシウムの中から選ばれた少なくとも一種の金属成分を含む水溶液から、それら成分を不溶化することにより形成した共沈物の脱水固体物からなる吸着剤に、40~100°Cでカラメル物質、ポリフェノール—鉄—複合体、メライジン、メラニンなどの着色物質含有ビートジュースを接触させ、該着色物質を吸着剤に吸着させ、かつ処理液pHを8~9に調整する第一工程と、該吸着剤を無機塩類水溶液に接触させ、吸着剤を再生する第二工程とよりなることを特徴とするビートジュースの精製法。

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
36	49-98626 (49. 8.28)	56-52788 (56.12.15)	1109290 (57. 8.13)	パッケージ用緩衝材 (山本 鉄也, 山崎 久雄)	凹凸状かつガス不透過性の可撓性フィルムないしはシートよりなる凹凸状の片面と平曲面状でガス不透過性材質よりなる他の片面とを、開口部を残して、開口部以外の全周縁を熱溶着し、両面の間に気体室を形成すると共に上記の開口部には重なった2枚のフィルムからなり、かつその2枚のフィルムが2本の熱溶着部でたがいに熱溶着されており、そして該2枚のフィルムの内面に、該熱溶着部、該2本の熱溶着部によってはさまれた開口部側の直線流路および該直線流路に接続し開口部と反対側の絞り部、ならびに該2本の熱溶着部と該絞り部とにかくこまれた部分の外側にあるフィルムの重なり部分をもつ構造であるチューブ状弁が取付けられていることを特徴とするパッケージ用緩衝材。
37	49-98627 (49. 8.28)	56-52789 (56.12.15)	1109291 (57. 8.13)	パッケージ用緩衝袋 (山崎 久雄, 大井 泰彦)	少なくとも内面側が熱溶着可能な熱可塑性樹脂製の複数枚の可撓性フィルムまたはシートからなる下記袋本体および該袋本体全体へ空気を送りこむためにその内面に設けられた下記チューブ状弁からなるパッケージ用緩衝袋。 イ. 袋本体は、三つの長方形が横一列に並び、かつ、その中央の長方形の上辺に他の一つの長方形が接続した、全体として四つの長方形からなる凸形状の平面をなす形状であり、となりあう長方形間の接続部分が全部を熱溶着され、または一部を残して熱溶着されることによって各長方形の部分は空気室が形成されており、 ロ. チューブ状弁は、重なった2枚のフィルムからなり、かつ、その2枚のフィルムが2本の熱溶着部で熱接着されており、そして、該2枚のフィルムの内面に、該熱溶着部、該2本の熱溶着部によってはさまれた外気側の直線流路および該直線流路に接続し外気側の反対に位置する絞り部、ならびに該2本の熱溶着部と該絞り部とにかくこまれた部分の外側にあるフィルムの重なり部分をもつ。
38	53-8377 (53. 1.30)	57-2641 (57. 1.18)	1112176 (57. 9.16)	酸化物微粉体の疎水化方法 (提 幸弘, 福田 豊, 松原 健一)	酸化物微粉体をオルガノポリシロキサンで、アルカリ触媒存在下で、処理する方法において、分子量10,000以下のオルガノポリシロキサンを1.5重量%以上、アンモニア又は沸点100°C以下の脂肪族アミン類を0.5重量%以上、水を1.5重量%以上、各々上記粉体の乾燥重量(水銀柱5mmHg以下の減圧下、100~110°Cで吸着水分を除いた量)に対して添加し、ただし、アンモニア又は沸点100°C以下の脂肪族アミン類の添加は温度60°C以下で行い、次いで15分間以上の熟成後30分間以上60~150°Cの温度に加熱し、かつ、これらいずれの処理も常圧下で行うことを特徴とする酸化物微粉体の疎水化方法。

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
39	49-109614 (49. 9.25)	57-6994 (57. 2.8)	1114487 (57. 9.29)	流出液の処理方法	クロロブレン製造における脱塩酸工程を経たあとの流出液中に溶存する有機物を除去するにあたり、最初流出液をオゾンで処理し、ついで該処理液を酸性になるまで塩素処理することを特徴とする流出液の処理方法。
40	49-113892 (49.10.4)	57-6906 (57. 2.8)	1114488 (57. 9.29)	化学物質の処理方法	アルカリゲネス属に属しエーテル結合を有する化合物を資化し得る菌を、エーテル結合を有する化合物を炭素源として含む培地に培養して、これを分解することを特徴とする化学物質の処理方法。
41	49-115655 (49.10.9)	57-7711 (57. 2.12)	1114489 (57. 9.29)	化学物質の処理方法	アクロモバクター属に属しエーテル結合を有する化合物を資化し得る菌を、エーテル結合を有する化合物を炭素源として含む培地に培養して、これを分解することを特徴とする化学物質の処理方法。
42	49-116210 (49.10.11)	57-7186 (57. 2.9)	1114490 (57. 9.29)	10H-8-アミノピリド [1,2-1-a] ベンゾ [d] ピリミジン-10-オン-7-カルボン酸及びその誘導体の製造法	6,9,10-トリヒドロ-7-アルコキシカルボニル-8-アミノピリド [1,2-a] ベンゾ [d] ピリミジン-10-オンを酸化することを特徴とする10H-8-アミノピリド [1,2-a] ベンゾ [d] ピリミジン-10-オン-7-カルボン酸及びその誘導体の製造法。
43	53-14939 (53. 2.14)	57-5230 (57. 1.29)	1114557 (57. 9.29)	テトラヒドロ-2-フラノールの製造法	テトラヒドロフランのヒドロ過酸化物を亜硫酸塩もしくは重亜硫酸塩の存在下で分解させることを特徴とするテトラヒドロ-2-フラノールの製造方法。
44	53-147139 (53.11.30)	57-4238 (57. 1.25)	1114575 (57. 9.29)	ビートジュースの精製方法	ビートジュース精製方法において、アルミニウムおよび鉄の中から選ばれた少なくとも一種の金属成分を含む金属成分と、カルシウムおよびマグネシウムの中から選ばれた少なくとも一種の金属成分を含む水溶液から、それら成分を不溶化することにより形成した共沈物の脱水固形物からなる吸着剤に、40~100°Cでカラメル物質、ポリフェノール-鉄一複合体、メライシン、メラニンなどの着色物質含有ビートジュースを接触させ、該着色物質を吸着剤に吸着させ、かつ処理pHを8~9に調整する第一工程と、該吸着剤を750~950°Cの高温で再生する第二工程とよりなることを特徴とするビートジュースの精製法。
45	54-21352 (54. 2.27)	57-5432 (57. 1.30)	1114577 (57. 9.29)	接着方法	セルロース系物質と金属を接着する方法において、60~92重量%のエチレン、4~30重量%の酢酸ビニルおよび3~30重量%のビニルアルコールからなるエチレン/酢酸ビニル/ビニルアルコール三元共重合体を接着剤として用い、フィルム状または粉末状で、あるいは溶融塗装して加熱接着することを特徴とする接着方法。
46	49-61041 (49. 5.31)	57-9368 (57. 2.20)	1116052 (57. 9.29)	クロロブレンの重合法	過酸化水素を触媒とし、少なくとも80重量%のアルコールまたはエーテル溶媒を用いて、温度80°C~120°Cの範囲でクロロブレンの重合を行い、モノマーからポリマーへの変換率が少なくとも50%以上であることを特徴とする水酸基末端ポリクロロブレンの製造方法。

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
47	49-116208 (49.10.11)	57-7185 (57.2.9)	1116063 (57.9.29)	キナゾリジオニン類 の製造法 (横山 泰一, 柴田 勝弥, 藤井 修, 岩本 英次)	<p>一般式</p> <p>(式中 R₁～R₃ は水素又はアルキル基を示す。)で示される6,14-ジヒドロピリド[2,1-b]ピリド[1',2':1,2]ピリミド[4,5-g]キナゾリジン-7,15-ジオニン類を有機溶媒中、アルカリ性条件下で酸化し、更に反応混合物を中和することを特徴とする一般式</p> <p>(式中 R₁～R₃ は前記したものと同じである。)で示されるピリド[2,1-b]ピリド[1',2':1,2]ピリミド[4,5-g]キナゾリジン-7,15-ジオニン類の製造法。</p>
48	50-100228 (50.8.20)	57-9363 (57.2.20)	1116073 (57.9.29)	有機一無機ポリイオンコンプレックスの製法 (清田 徹, 清水 明彦)	<p>下記の一般式(1)～(6)で示されるポリカチオノンポリマーの一種とけい酸アルカリ金属塩を溶媒の存在下に反応させることを特徴とする新規ポリイオンコンプレックスの製法。</p> <p>(1)</p> <p>(2)</p> <p>(3)</p>

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					<p style="text-align: center;"> $\left[\begin{array}{c} R_5 \\ \\ CH_2 - C - (M) - \\ \\ C = O \\ \\ O - CH_2 CH_2 - N^{\oplus} - R \\ \\ R_3 X^{\ominus} \\ \\ R_4 \end{array} \right]_n \quad (4)$ $\left[\begin{array}{c} R_5 \\ \\ CH_2 - C - \\ \\ C = O \\ \\ NH - CH_2 - N^{\oplus} - R \\ \\ R_4 \end{array} \right]_n \quad (5)$ $\left[\begin{array}{c} O - CH_2 - CH \\ \\ \\ n \\ CH_2 - N^{\oplus} - R \\ \\ R_3 X^{\ominus} \\ \\ R_4 \end{array} \right]_n \quad (6)$ </p> <p>(ただし一般式(1)ないし(6)中、 Rは炭素数1ないし10の炭化水素基、アルキロール基、ベンジル基またはフェニアルキル基である。 R₁は水素原子または炭素数1ないし4の炭化水素基である。R₂は水素原子または炭素数1ないし2のアルキル基である。R₃とR₄とは異なってもよく、炭素数1ないし6の炭化水素基である。R₅は水素原子またはメチル基である。Xはハロゲン原子、水酸基である。Mはビニル系単量体である。xは0を含む任意の数である。nは10以上の数である。)</p>
49	50-101176 (50. 8.22)	57-8850 (57. 2.18)	1116074 (57. 9.29)	金属の連続溶解装置 (加藤 徹, 寺内 俊篤, 天満 覚, 渡辺 功)	<p>(1) 塊状金属固体を連続移動して仕込む仕込み装置を内蔵し、かつ液体によって内部を外気と遮断(液封)した仕込管を、溶解槽の上部に設置し、前記仕込管の原料排出側の端部は溶解槽の液面下に埋没させ、前記仕込管の端部の下面より上部に位置する溶解槽壁面に、溶解液、溶解残渣の溢出口を備え、かつ、溶解に発生するガスの捕集機構を併設した塊状金属の密閉式連続溶解装置。</p> <p>(2) 塊状金属固体を連続移動して仕込む仕込み装置を内蔵し、かつ、液体によって内部を外気と遮断(液封)した仕込管を、溶解槽の上部に設置し、前記仕込管の原料排出側の端部は溶解槽の液面下に埋没させ、前記仕込管の端部の下面より上部に位置する溶解槽壁面に溶解液、溶解残渣の溢出口を備え、前記溢出口に接続して、溶解残渣の二次溶解槽を備え、溶解槽の下部に溶解ガスの導入口を設け、かつ、ガスの捕集機構を併設した塊状金属の密閉式連続溶解装置。</p>

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
50	51-148732 (51.12.13)	53-73244 (53. 6.29)	1116104 (57. 9.29)	粉末状ゴムの製法 (林 隆夫, 坂中 靖弘, 清水 明彦)	アニオンもしくはノニオン性のゴムラテックスに、その乾燥重量当り0.1~10重量%の水中で解離して負荷電を持つアニオン性水溶性高分子を混合した液を、該アニオン性水溶液性高分子と酸性雰囲気下でコアセルベーションを起生しるところの酸性で水に溶解するカチオン性高分子、陽イオン界面活性剤のいずれかを該ゴムラテックスの乾燥重量当り0.1~10重量%の範囲で含む水溶液中に酸性雰囲気下に投下混合し、コアセルベーションを起こさせてゴムラテックスからゴム粒子を分離させた後、これに該ゴムラテックスの乾燥重量当り1~50重量%のガラス転移温度30°C以上の合成樹脂をエマルジョンとして添加混合し、脱水、乾燥することを特徴とする粉末状ゴムの製法。
51	52-5788 (52. 1.24)	57-9585 (57. 2.22)	1116118 (57. 9.29)	ブタジエン過酸化物重合体の製造法 (真渕 俊介, 雲井 貞勝, 住田 誠)	テトラヒドロフラン、テトラヒドロピラン、あるいはそれらのアルキル置換誘導体から選ばれた有機溶媒に稀釈した1,3-ブタジエンを、分子状酸素と不活性気体よりなる気体混合物を用いて液相酸化を行ないブタジエン過酸化物重合体を製造するにあたり、原料ブタジエン対溶媒供給比を0.5~4対1(重量比)、反応気相部の酸素分圧を0.5~1.4kg/cm ² 、反応温度を80~110°Cにして反応させることを特徴とするブタジエン過酸化物重合体の製造法。
52	52-109450 (52. 9.13)	57-7626 (57. 2.12)	1116142 (57. 9.29)	芳香ジアンの安定化法 (大塩 通昭, 提 幸弘, 菊地 光雄)	芳香族ジアミンを含む系に一酸化窒素を存在させることを特徴とする芳香族ジアミンの安定募法。
53	53-102923 (53. 8.25)	57-11395 (57. 3. 4)	1116179 (57. 9.29)	クロムメッキ浴 (毛利 隆, 田中 秀夫, 三浦 正道, 小柴 淳治)	(1) 1)0.2モル濃度から飽和濃度の3価クロム、 2)3価クロムに対して1~4倍のモル濃度のホルムアミド、尿素の群から選ばれた少なくとも1種、3)アルミニウム濃度で0.1~2モル濃度のアルミニウム塩、4)0.2モル濃度以上のアンモニウムイオンを含むクロムメッキ浴。 (2) 1)0.2モル濃度から飽和濃度の3価クロム、及び、0を越え飽和濃度の鉄イオン、ニッケルイオン、コバルトイオンの群から選ばれた1種以上、2)3価クロムに対して1~4倍モル濃度のホルムアミド、尿素の群から選ばれた少なくとも1種、3)アルミニウム濃度で0.1~2モル濃度のアルミニウム塩、4)0.2モル濃度以上のアンモニウムイオンを含むクロムメッキ浴。
54	53-102926 (53. 8.25)	57-11396 (57. 3. 4)	1116180 (57. 9.29)	クロムメッキ浴 (毛利 隆, 三浦 正道)	(1) 1)0.2モルから飽和濃度の3価クロム、2)3価クロムに対して0.5~4倍モル濃度の、アミノ酸又はアミノ酸塩からなる群から選ばれた少なくとも1種、3)0.2~1.5モル濃度のスルファミン酸及び/又はスルファミン酸塩、4)0.5モル濃度以上のアンモニウムイオンを含むクロムメッキ浴。 (2) 1)0.2モルから飽和濃度の3価クロム及び

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					鉄、ニッケル、コバルトからなる群から選ばれた1種、2)3価クロムに対して0.5~4倍モル濃度の、アミノ酸又はアミノ酸塩からなる群から選ばれた少なくとも1種、3)0.2~1.5モル濃度のスルファミン酸及び/又はスルファミン酸塩、4)0.5モル濃度以上のアンモニウムイオンを含むクロムメッキ浴。
55	48-126354 (48.11.12)	56-49556 (56.11.24)	1119438 (57.10.28)	発酵法によるL-リジンの製造法 (山下 守,瀬戸 弘司)	酢酸を主炭素源として含む培地で、L-リジン生産菌を生育させ、生成するL-リジンを回収するL-リジンの製造法において、この培地中に多価カルボン酸又は、少なくとも一個の水酸基および/又はカルボニル基を有する一価もしくは多価のカルボン酸の一価以上を添加することを特徴とするL-リジンの製造法。
56	52-58827 (52. 5.23)	57-13267 (57. 3.16)	1119509 (57.10.28)	蛋白分解酵素の回収法 (野中 悠次, 小山 清孝, 佐藤平次郎) (相模中央化学研究所と共に)	アミノ基をベンジルオキシカルボニル基で保護した第1のアミノ酸又はペプチドと、カルボキシル基を保護した第2のアミノ酸又はペプチドとを水性媒体中蛋白分解酵素の存在下でペプチド生成反応を行なわせかつ反応生成物、又は反応生成物と原料の一方の成分との付加化合物を析出させ、これに水と混和し得る極性有機溶媒を加えて水性媒体中に溶解させると同時に析出物を溶解し、得られた懸濁液を固液分離し、蛋白分解酵素を固相として分離することを特徴とする蛋白分解酵素の回収法。
57	52-58828 (52. 5.23)	57-13268 (57. 3.16)	1119510 (57.10.28)	蛋白分解酵素の回収法 (野中 悠次, 小山 清孝, 佐藤平次郎) (相模中央化学研究所と共に)	アミノ基をベンジルオキシカルボニル基で保護した第1のアミノ酸又はペプチドと、カルボキシル基を低級アルコキシ基で保護した第2のアミノ酸又はペプチドとを水性媒体中蛋白分解酵素の存在下でペプチド生成反応を行なわせかつ反応生成物、又は反応生成物と原料の一方の成分との付加化合物を析出させ、析出物を液相から分離し、これに有機溶媒を加えて析出物を溶解し、得られた懸濁液を固液分離し、蛋白分解酵素を固相として分離することを特徴とする蛋白分解酵素の回収法。
58	52-58829 (52. 5.23)	57-13269 (57. 3.16)	1119511 (57.10.28)	蛋白分解酵素の回収法 (野中 悠次, 小山清孝, 佐藤平次郎) (相模中央化学研究所と共に)	ベンジルオキシカルボニル基でアミノ基を保護した第1のアミノ酸又はペプチドと、低級アルコキシ基でカルボキシル基を保護した第2のアミノ酸又はペプチドとを水性媒体中蛋白分解酵素の存在下でペプチド生成反応を行なわせかつ反応生成物、又は反応生成物と原料の一方の成分との付加化合物を析出させ、これに水と二相を形成し得る有機溶媒を添加し、混合して析出物を有機溶媒に溶解させた後二相を形成させ、更に二相分離を行い、水相から蛋白分解酵素を回収することを特徴とする蛋白分解酵素の回収法。
59	51-66083 (51. 6. 8)	54-28400 (54. 9.17)	1122255 (57.11.12)	正炭酸マグネシウムの 製造方法 (有家 潤二, 前田 一)	重炭酸マグネシウムを含有する水溶液を脱炭酸化して正炭酸マグネシウムを製造するに当り、該水溶液を温度40~75°C、滞留時間1~30分の反応条件下で連続的に脱炭酸化して析出させることを特徴とする正炭酸マグネシウムの製造方法。

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
60	52-44123 (52. 4.19)	56-26617 (56. 6.19)	1123463 (57. 11.12)	α-オレフィン重合用 三塩化チタンの製造方法 (鈴木 祐二)	四塩化チタンを、-50~0°C の温度で、脂肪族炭化水素中エーテルの存在下に、有機アルミニウム化合物で還元し、得られた三塩化チタンを含有する固体物質を 0~50°C に昇温して処理し、次いで処理された固体物質を四塩化チタンで処理することを特徴とする α-オレフィン重合用三塩化チタンの製造方法。
61	53-127310 (53.10.18)	57-15115 (57. 3.29)	1123518 (57.11.30)	p-スチレンスルホン酸 アルカリ金属塩の製造法 (藤井 一, 服部 達夫) (48-9933の分割)	2-ハロエチルベンゼンに対して 0.5 乃至 20 重量 % の有機カルボン酸の存在下で 2-ハロエチルベンゼンを有機溶媒中で三酸化イオウによってスルホン化し、えられた p-2-ハロエチルベンゼンスルホン酸を p-2-ハロエチルベンゼンスルホン酸に対して 0.7 乃至 1.4 重量倍の水の存在下で 100°C をこえる温度でアルカリ金属水酸化物と反応させることを特徴とする p-スチレンスルホン酸アルカリ金属塩の製造法。
62	52-32281 (52. 3.25)	57-13265 (57. 3.16)	1124544 (57.11.30)	微生物菌体の製造方法 (竹本 久雄, 五十嵐辰夫, 弘中美佐子, 麻生 順子)	水溶性炭素源としてメタノール、プロピレングリコール又は D-グルコースを含む培地にシードモナス・メタノロボラに属する細菌を培養し、培養液から菌体を分離採取することを特徴とする微生物菌体の製造方法。
63	54-26735 (54. 3. 9)	57-9359 (57. 2.20)	1124566 (57.11.30)	D-アロースの製造方法 (三崎 旭, 竹本 久雄, 五十嵐辰夫)	シードモナス属に属する微生物の菌体外生産物である、構成糖として D-アロースを含む多糖類を加水分解し、得られた加水分解物から D-アロースを分離採取することを特徴とする D-アロースの製造方法。
64	51-15513 (51. 2.17)	56-23927 (56. 6. 3)	11225182 (57.11.30)	塩基性アルミニウム塩 水溶液の安定化方法 (宮之原 熱, 宮崎 弘, 河村 秀雄)	塩基性塩化アルミニウム水溶液又は塩基性硫酸アルミニウム水溶液にアルドヘキソース類、アルドン酸類、アルドノラクトン類およびオキシポリカルボン酸類からなる少なくとも一種の物質を共存させることを特徴とする塩基性アルミニウム塩水溶液の安定化方法。
65	48-51194 (48. 5.10)	56-51122 (56.12. 3)	1125719 (57.11.30)	リン酸の精製法 (利光 極, 藤井 咲美, 中嶋 武俊)	五価バナジウム化合物を含有する不純リン酸から、水と有限の溶解度を有する脂肪族アルコールを用いた溶媒抽出により、精製リン酸を得る方法において、該不純リン酸と該脂肪族アルコールとを向流接触させる第一工程と、該工程で得られるリン酸含有抽出相と洗滌用リン酸水溶液とを接触させる第二工程とからなり、その際、二価鉄化合物（ただし、次亜リン酸塩を除く）を、五価バナジウム化合物を還元するに十分な量で添加反応させることを特徴とするリン酸の精製法。
66	49-77773 (49. 7. 9)	56-52848 (56.12.15)	1125733 (57.11.30)	精製リン酸の製造法 (利光 極, 藤井 咲美, 内田 昭郎, 藤井 義夫)	リン鉱石に硫酸又は塩酸を作用させ、ついで生成した粗リン酸を有機溶媒抽出法により処理して得られる抽出リン酸から精製リン酸を製造する工程において、この抽出リン酸にその液中のフッ素とシリカの原子比 (F/Si) が 4 以上になるようにフッ素化合物を加えて減圧下で濃縮し、更にこの濃縮液を水蒸気及び又は加熱空気と接触させることを特徴とする精製リン酸の製造法。

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
67	50-111698 (57. 9.17) (大塩 通昭, 提 幸弘, 菊地 光雄)	57-14656 (57. 3.25)	1125747 (57.11.30)	p-ジイソプロペニルベンゼンの製造方法	p-ジイソプロピルベンゼンビカルビノールを水溶液中酸触媒により加熱脱水する際、炭素原子数6~8の脂肪族炭化水素類を共存させることを特徴とするp-ジイソプロペニルベンゼンの製造方法。
68	52-91474 (52. 8. 1) (岡田 宏亮, 園田 武文, 後藤 鉄之)	57-18768 (57. 4.19)	1125770 (57.11.30)	点滴灌漑用灌水パイプ およびその製造方法	(1) 同種又は異種の熱可塑性樹脂から成る二枚の帯状フィルムを積層して成り、その積層面のうち一面の長手中央に剥離又は発泡剥離することにより導管部が形成されるべき帯模様の剥離性皮膜を設け、また、前記長手側部の少なくとも片側に発泡剥離することにより前記導管部から枝分かれした散水流路が形成されるべき屈折または屈曲部および/または分岐部を有する形の流路模様の剥離性皮膜を設けて成り、少なくとも流路模様が発泡剥離して成ることを特徴とする点滴灌漑用灌水パイプ。 (2) 長さ方向に平行な多数の縞状帯模様を剥離性インキ又は発泡剤を含む剥離性インキで印刷し、かつ縞状帯模様と縞状帯模様の間隔面に縞状帯模様から枝分かれした屈折または屈曲部および/または分岐部を有する形の流路模様を発泡剤を含む剥離性インキで印刷した熱可塑性樹脂の広巾、長尺フィルムを基材とし、この基材に熱可塑性樹脂フィルムをラミネートしたものを、加熱して発泡剤を分解させることにより少なくとも流路模様の部分の積層面を剥離、膨張させたのち、隣り合う帯模様の間を長手方向にスリットするか、あるいはスリットしたのち加熱して発泡剤を分解させることにより少なくとも流路模様の部分の積層面を剥離、膨張させることを特徴とする点滴灌漑用灌水パイプの製造方法。
69	51-16180 (51. 2.17) (大石橋宏次, 佐々木 秀, 大原 宗行, 川上 登, 長谷川 孝, 大木 淳雄) (日本国有鉄道と共に願)	57-19189 (57. 4.21)	1125823 (57.11.30)	レール肉盛用自溶合金 組成物	Ni 20~50 wt%, Cr 3~15 wt%, B 0.1~1.2 wt%, Si 0.4~3 wt%, C 0.01~0.5 wt%, Mo 1~8 wt% 及び残部 Fe を含んでなることを特徴とするレール肉盛用自溶合金組成物。
70	53-42834 (53. 4.12) (岡田 宏亮, 園田 武文, 庄司 修)	57-16612 (57. 4. 6)	112597 (57.12.14)	点滴形灌水パイプ およびその製法	同種又は異種の熱可塑性樹脂からなる二枚の帯状フィルムを積層してなり、その積層のうち一面の長手中央に、剥離することにより導管部が形成されるべき帯模様の剥離性皮膜を設け、また前記一面の両長手側部の少なくとも片側に剥離することにより前記導管部から枝分かれし、かつ絞り部を有する散水流路が形成されるべき流路模様の剥離性皮膜を設けてなることを特徴とする点滴形灌水パイプ。
71	51-145547 (51.12. 6) (清水 良一, 佐藤 公司, 三原 信一)	57-18486 (57. 4.16)	1126987 (57.12.14)	フィルム内面冷却ダイ 装置	熱可塑性樹脂をインフレーション加工するものにおいて、筒状インフレーションフィルム内に空気を供給する空気供給管を囲み冷却水の供給と排出をする多重管を位置させ、冷却水流路の抵抗器を保持する一以上のリングよりなるリン

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					グ金具組を前記多重管に水密に固定し、さらに前記リング金具組に外接して筒状金具の一端を水密に固定し、前記筒状金具の外面と冷却ダイ本体内面とで冷却水通路を形成しつつ前記各部材を囲み多重管と水密に接続して水冷ダイを構成することを特徴とするフィルム内面冷却ダイ装置。
72	52-64876 57-7625 1128646 (52. 6. 3) (57. 2.12) (57.12.24) (大塩 通昭, 提 幸弘, 菊地 光雄)	芳香族ジアミンの分離方法			芳香族ジハライドとアンモニアとを反応させ、生成した芳香族ジアミンを反応生成液から分離取得するに当り、この反応生成液にアルカリを添加して芳香族ジアミンを遊離型とし、かつその濃度を約5乃至35重量%とし、更にこれを遠心薄膜蒸発器より蒸留することを特徴とする芳香族ジアミンの分離方法。
73	52-121868 57-8095 1128656 (52.10.13) (57. 2.25) (57.12.24) (大塩通昭, 提 幸弘, 菊地 光雄)	芳香族ジアミンの安定化法			(1) 芳香族ジアミンを含む系に亜硝酸塩を存在させることを特徴とする芳香族ジアミンの安定化法。 (2) 芳香族ジアミンを含む系に亜硝酸塩及び一酸化窒素を存在させることを特徴とする芳香族ジアミンの安定化法。